

団体名	所在地	活動内容の概要
NPO法人 しもかわ観光協会 会長 石谷 英人	下川町	【下川町の自然資源を活用した通年観光プロジェクト】 今後のダム湖観光と、名寄川地区かわまちづくり計画の連携を考慮し、下川町の自然資源を核とした、通年で行える安定的なアクティビティ観光を創出する。これを通じダムの観光利用の活発化と、通年観光の創出による、持続可能な下川観光を目指すプロジェクトとなる。
一般社団法人 清水沢プロジェクト 代表理事 佐藤真奈美	夕張市	【炭鉱遺産を活用したと歩むまちづくり「清水沢エコミュージアム」活動の推進】 当法人は平成28年度より、夕張市と協働で産業遺産ツーリズムから関わり人口を増大する「清水沢エコミュージアムプロジェクト」をスタートさせました。炭鉱遺産を活用した地域内外の人々がともに歩むまちづくりを目指し、遺産の保存活用事業を展開してきましたが、炭鉱遺産と炭鉱由来の地域文化の中に今も生活がある清水沢地区では、そのセンターとしての役割の清水沢コミュニティゲートを拠点に、市民が自発的に行動をはじめるとの動きが生まれつつあります。 当法人が求められる社会的な役割はますます重大になっています。活動を通じ市民が活躍し、多くの心を寄せる人々とともに、夕張の宝である炭鉱の記憶が地域の誇りとなるよう、活動の持続可能な運営基盤を整えていきます。
NPO法人 創成塾 理事長 黒滝 秀久	網走市	【素材供給基地からの脱却～市場ニーズに対応した高付加価値商品開発ノウハウの習得～】 オホーツク地域は、良質な一次産品に恵まれており、素材供給基地として全国的に評価は高いが、地元での高付加価値の商品加工が少ないのが現状である。数年前は6次化の気運にのり、商品開発が盛んに行われていたが、現在その熱も一段落した感がある。商品開発においては、製造者の思いが強くなりすぎる傾向（プロダクトアウト）があるため、市場ニーズに詳しい講師を招きセミナーを行い、消費者の立場に立った商品作り（マーケットイン）の知識を学ぶとともに、あわせてワークショップを行ってより深い知識習得を目指す。この事により、ものづくり気運の向上と地域の良質な素材を使った高付加価値商品の開発が期待される。
シーニックバイウェイ北海道 道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会 代表 加藤 祐一	稚内市	【道北フォトツーリズム推進事業～フォトツーリズムで、きた北海道周遊！～】 シーニックバイウェイ道北4ルートは、道央圏に集中する観光客の分散化と道北地方への誘客を期し、超広域道北連携事業として、平成26年度から継続的に「道北ルート連携フォトコンテスト」を地域主導で主催している。 本活動では、道北地方への誘客をさらに進めるべく、過年度までのフォトコンの応募作品を活用することで、ライトな写真愛好家を対象としたフォトブックを作成し、それらの効果検証も行う。この活動を通して、景観資源のめぐまれた道北地方への新しい誘客手法として、「道北フォトツーリズム」を提案し、実践的に検証する。
NPO法人 WAOニセコ羊蹄再発見の会 理事長 古谷 和之	倶知安町	【ニセコ・羊蹄山麓の地域資源である雪・農・食を活用した新商品及び観光コンテンツの開発】 ニセコ・羊蹄山麓の地域資源（雪・農・食）を活用した新たな商品開発及び体験型ツーリズムなどの着地型観光のコンテンツ開発を推進する。 【事業内容】 1. 地域資源（雪・農・食）等を活用した体験型ツーリズムの開発 2. 地域資源（雪・農・食）を活用した新商品開発・販売 3. 地域資源（雪・農・食）等を活用した体験型ツーリズムや新商品販売のための広報・周知 4. その他、本協議会の目的達成のために必要な事業
NPO法人 利尻ふる里・島づくりセンター 代表理事 小坂 実	利尻町	【「利尻海藻押し葉・押し花融合作品」全国コンクール開催事業】 当団体では、未利用資源である雑海藻をアートとして活用した「利尻海藻押し葉」による独自文化の創出を推進しており、1999年に着手して以来20年を経過している。そうした中、昨年、北海道命名150年の節目に天皇后両陛下が利尻島を訪れ、その記念の献上品として「利尻海藻押し葉」の作品が選定され献上されたのを機に、全国規模のコンクール展を開催し、利尻島の独自文化を全国にPRすることで更なる知名度アップを図り、離島の独自文化を観光資源として活用しようとするものである。
十勝シーニックバイウェイ南十勝夢街道忠類地域部会 支部長 加藤 茂樹	幕別町	【道の駅及びシーニックカフェを拠点とした地域内経済循環及び魅力発信事業】 幕別町忠類地区に設置されている道の駅「忠類」は、年間入込客数が38万人を超え、地域の観光拠点となっている。また、毎年道の駅「忠類」に近接して設置・運営される「シーニックカフェちゅうるい」は、優れた景観とカフェスタッフのホスピタリティの高さから、来訪者に高い評価を得ている。 本事業は、道の駅の高い集客力とシーニックカフェの取組みを組み合わせ、来訪者の地域内循環による経済波及効果の発揮及び地域の魅力向上・発信を目指すものである。 具体的には、①道の駅におけるデジタルサイネージ等による情報発信事業、②地域内で利用できるクーポン配布による経済循環事業、③新たなブランディング事業、④カフェスタッフ体験事業などを実施する。
天塩かわまちづくり協議会 会長 国奥 強	天塩町	【住民協働による「天塩の国眠れる地域資源グローバル活用プロジェクト」】 (1) 住民協働による地域素材の資源化と魅力発信コンテンツ企画とツール制作 (2) インパウンドを主対象としたレンタ・サイクルのモニタリング実証 (3) 天塩川「夕映えフォト」Instagramコンテストの実施